

茂木敏充衆議院議員との対談 第 1 回

全 4 回

衆議院議員 茂木敏充先生

開倫塾塾長 林明夫

林 : おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」を聴いて下さり、ありがとうございます。今月は、スペシャルゲストとして小泉内閣で国务大臣もお務めになった茂木敏充衆議院議員をお招きし、「少子高齢化社会」についてお話を伺います。先生よろしくお願いいたします。

茂木 : よろしくお願ひします。林塾長と、ちょうど去年のこの時期に「教育改革」についてシリーズで議論させて頂きました。今回の「少子高齢化社会」についての議論も楽しみにしています。

林 : 毎月 1 回第 3 土曜日にこのようなかたちで、4 か月間にわたってご指導して頂きたいと思ひます。それでは早速テーマに入りたいと思ひますが、まず日本の「少子高齢化社会」の特徴とは、ズバリ何でしょうか。

茂木 : テレビのニュースや新聞等で毎日のように「少子化が進む」、「高齢化社会の到来」と話題に取り上げられていますが、日本の場合、まず高齢化はそのスピードと規模が世界一だということです。おおよそ欧米の 3 倍のスピードで進んでいます。ただ車のスピードとは違いますから、3 倍といってもイメージが湧きにくいと思ひます。具体的な数字で説明します。例えば、日本に 100 歳以上のお年寄りが何人くらいいるかという、今からちょうど 50 年前の昭和 30 年には全国でも、わずか 158 人でした。それが 50 年たった今の最も新しいデータでは何と 2 万 5 千人を超えています。

林 : 誰でも 100 歳以上生きられる世界ですね。

茂木 : ちなみに男女別でみると、この 2 万 5 千人のうち男性は約 3,700 人、女性は 21,000 人を超えています。女性の方が長寿です。先日新しい統計が発表されましたが、日本の女性の平均寿命は 86 歳で、また世界記録を更新しました。

林 : 世界一ですか。

茂木 : はい。世界が今、日本の女性についてどのように言っているかご存知ですか。半分冗談にしても、「このままいくといつの日か日本の女性は死ななくなるのではないか(笑)」と。社会全体の人口構成に関して「高齢化率」という言葉があります。65 歳以上の人が人口全体にどのくらいのパーセントを占めるかを、定義上高齢化率と言ひます。先進国では、これがおおよそ 20 %くらいに膨らむと高齢化社会と言われます。その高齢化率があまり高齢化の進んでいない 10 %から高齢化社会と言われる 20 %になる期間が、日本は欧米の 3 倍くらいのスピードなのです。

林 : 期間が短いのですね。

茂木 : 具体的に言ひますと、10 %から 20 %になるのに、アメリカは 61 年かかっています。イギリスは 78 年、フランスは 86 年です。北欧の国の例をいくつか紹介すると、スウェーデンは 66 年、ノルウェーは 76 年です。欧米では短い国で 60 年、長い国では 80 年以上かかってゆっく

りと高齢化が進んでいます。ところが、日本は何とわずか 21 年で 10 %から 20 %になっています。

林： 他の国々の 3 分の 1、4 分の 1 くらいの短さですね。

茂木： つまり、速さが 3 倍、4 倍ということです。

林： 高齢化社会の具体的問題については 2 回目で何うとして、もう 1 つの少子化の方にも日本は何か特徴があるのでしょうか。

茂木： はい、1 つ大きな違いがあります。欧米と日本との違いは、欧米のほとんどの国はすでに少子化がストップしていることです。出生率も少しずつ上がる傾向を示しています。イギリス、フランス、北欧諸国がそうです。それに対して日本は、少子化がまさに現在進行形です。出生率のデータが出るたびに、1.5 であったのが 1.4 になり、今は 1.3 をきって 1.25 です。世界の国々の中で少子化にストップがかかっていないのは、日本以外ではスペイン、イタリア、韓国、そしておそらく中国はこれからそうなるっていくでしょう。本当に限られた国だけです。

林： 出生率が低下するとどのような問題が発生してきますか。

茂木： 出生率の低下は、人口にも影響を及ぼします。実は、日本は昨年が人口のピークで、1 億 2778 万人でした。今年から減り始めています。特に働く世代の人口は急速に減少し、今後 10 年で 410 万人の労働力不足が発生します。

林： 人口減少社会ですね。

茂木： このままでいくとどうなるか。100 年後には日本の人口は大体 6000 万人台となり、今と比べると半減してしまうと懸念されています。人口問題研究所というところが、200 年先、300 年先も予測していて、このままのペースでいくと、1400 年後には日本人は 1 人になってしまうようです。そこまで心配するかどうかは別にして、人口の減少がこれからの日本で大きな問題となってくることを是非多くの皆さんに理解して頂きたいと思います。

林： 今後はどのような対策が必要でしょうか。

茂木： 大きく 2 つの課題、そして対策があります。1 つは制度改革です。先ほどお話しましたが、今から 50 年前、昭和 30 年の時点ではお年寄りの数が少なかったわけです。100 歳以上の方が全国でも 158 人、働く人が多くてお年寄りが少なかった時代が日本の高度成長期だったのです。日本の医療制度や年金制度は、だいたい昭和 30 年代に今の枠組みができていますから、人口構成の大きな変化に合わせてその制度を見直していかなければならない。これが大きな課題の 1 つです。ところで、林さんも団塊の世代ですね。

林： はい。1950 年生まれですから、そうです。

茂木： 団塊の世代のお子さんは「団塊ジュニア」と言われ、1971 年～ 1975 年に生まれた子供達が、今 30 代になっています。ちょうど出産、子育ての適齢期です。しかも、この世代は、人口ピラミッドでみると、団塊世代に次いで 2 つ目の大きなかたまりですから、団塊ジュニアがこれからどれだけ子供を産んでくれるか。これから 5 年間の団塊ジュニアのがんばりで日本の少子化に歯止めがかかるかが決まってきます。

林： 制度改革と団塊ジュニアの動向、この 2 つですね。

茂木： はい。この 2 つが大きな課題ですね。

林： どうもありがとうございました。今日は、衆議院議員で科学技術政策担当、IT 担当大臣もなさった茂木敏充先生に、「高齢化社会」について、そして「日本の少子高齢化社会」の特徴についてお話を伺いました。